新しいものへ

丸杉澄子

私どもの園は、昭和卅年四月に、桐明女子学園の初等部として、短大までの一大綜合学園の一課程として創設されました。組の編成は、一年保育、二年保育各一組ずつで、総数は約七十一名になっています。特徴の一つとして、小学校との密接な関連、さらに中・高との交流があるとおもいます。小学校との関連も多くの研究課題を持ちつつ、三年目をむかえましたが、現在だいたいにおいて一貫した教育目標に向って、歩みだした感じがします。ここで問題としてとりあげたいのは、保育内容とその形態について、今までやって見たこと、現在やっていることをかえりみて、今後に残されている問題にふれてみたいとおもいます。創設当時、何もかも新しいところで、私どもは大きな野心をもって、従来の幼稚園の形式、内容にとらわれず、基本より考えなおして何か新しい物を作り出そうと、希望にもえて出発しました。保育の形を自由保育として、保育内容は、コア型に近いもので、保育項目に示されたいろいろ経験の様式や経験の領域を、その中に織りこんで展開されていくある種の大きなプロゼクトを構成して、それを毎日のプログラムの中心において、子どもの興味、活動に重点をおきました。単なる技術の修得、たとえば折紙がきれいに折れるとか、歌が上手にうたえるとかいうことよりも、自由遊びの中によろこんでその日の仕事に飛びこみ、たのしく遊んで帰る子どもの後姿を見て心あたたまるものを感じ、満足していましたが、このような児童中心主義カリキュラムというか、ともすると安易な方向に流れやすい自由保育に安住できなくて、子どもの興味、自由な活動を尊重しながら、そこにある計画性をもち、しかも子どもの生活にぴったりしたカリキュラムであり、保育形態でなければならないと反省し考えさせられました。そこで今年は、教育目標を知能、情緒、社会性と項目を大きく三つにわけて、それぞれを六領域にあてはめて考えて見たのです。たとえば、「音楽リズム」について知能の面では、リズムによる時間、感覚をはっきりともつことをねらい、情緒の面では音楽の美しさをよく感じとり、音楽を好むことを目標にし、社会性の面では一しょにたのしく歌ったり踊ることができるということを目標にする。そして一年間の流れを三つの大きな目標にわけてみた。「集団になれる」、「自主的に活動する」、「グループ活動を積極的にする」。この計画と実際の保育の記録にもとづいて、私たちは、今後よりよい、独自なカリキュラムの作成を望んでいます。そこで決った形にとらわれず、保育の内容および形態を毎年変え、従来の、年中行事やごっこ遊びでうずまっているカリキュラムから脱却して、新しいものを生み出す方向に歩んでいきたいとおもいます。真の幼稚園教育のありかたを考えるべきではないでしょうか。家庭教育で得られない集団的な社会的生活の経験の場であるから、そのカリキュラムにもられる生活経験も集団的で民主的に運営される、組織的なプロゼクトでなければならないとおもいます。

（幼稚園教諭・東京都下）